

青鳳会資料 狭心症の鍼灸治療

平成30年9月23日
青鳳会講師 吉野 久

I. 諸 言

狭心症とは、虚血性心疾患のひとつで、心臓の筋肉に酸素を供給している冠動脈の動脈硬化、攣縮などにより、一過性の心筋の虚血のための胸痛、胸部圧迫感などを現す症状である。冠動脈が完全に閉塞する、あるいはいちじるしい狭窄が起り、心筋が壊死するような場合には心筋梗塞という。

われわれ鍼灸師のもとを訪れる心疾患患者は、普段から自分の心臓疾患についての認識を持っており、医師から緊急時に服用する薬（ニトログリセリンなど）を処方されている場合がほとんどであり、重篤な患者が、緊急でやってくる場合はまずない。

しかし、これ以上に問題なのは、狭心症を患っている患者が医師のもとを訪れても、「症状の出ているときに来なければ、診断ができません」と告げられることで、おおくの狭心症患者が、このことで困惑することになる。医師としては、狭心症の症状が確認できない以上、狭心症の診断ができないのだが、患者としては狭心症の発作に襲われて、生命の危険を感じているのである。そのために医師のもとを訪れても、このように告げられることで大きな葛藤に直面することになる。

ここに我々鍼灸師の出番があり、患者の日頃からの発作にたいする怯えを軽減することができるのである。

- ※ 狭心症の場合、発作時は心電図に異常が現れるが、15分以内に消失する。このため病院へ行くまでには元の状態に戻ってしまう。このため病院では発作時の状態を調べるため、「負荷心電図」といって、運動をしてもらいながら心電図をとることになる。

II. 狭心症の分類

狭心症には、以下の4つの種類がある。

① 労作性狭心症

「階段をあがると胸が締め付けられるように痛くなる」「重いものを持ち上げる、坂道を歩くなどすると胸が苦しく痛む」という現れ方をする。痛みは圧迫感、絞扼感、灼熱感などと表現され、痛む部位は前胸部、みぞおち、肩、頸など。歯や喉が痛むこともある。痛みの続く時間は短く、多くは数分まで。

<発生機序>

労作時には、多くの血液を心臓から送り出す必要があり、心筋の働きも増加するが、このときに冠動脈に狭窄があると心筋への十分な血液の供給ができなくなる（心筋虚血状態）。こうして起こるのが労作性狭心症である。

<対処法>

まず安静をこころがける。座って、シャツのボタンをゆるめ、呼吸を楽にする。ニトロ製剤（舌下錠）を処方されている場合には、口に含む。ニトロ製剤には冠動脈を広げて心臓の負荷を減らし、心筋虚血を改善する作用がある。その一方でニトロ製剤は血圧も下げるので、倒れても差し支えないように、座った状態で口に含む。そうすれば短時間のうちに楽になる。

② 安静時狭心症、冠攣縮性狭心症

「就眠中、ことに明け方、胸が苦しく押さえつけられたようになる」という現れ方をする。これ以外には、痛みの性質や部位などは労作性狭心症の場合と同じ。

<発生機序>

多くの場合、冠動脈が一過性に痙攣を起こして収縮し、血流を一時的に途絶えさせるために起こる狭心症であり、攣縮性狭心症ともいわれる。冠動脈の攣縮もまた、動脈硬化の進行過程にみられる現象といわれている。

<対処法>

この場合も、冠動脈の攣縮をほどいて広げるニトロ製剤がよく効く。ほかにカルシウム拮抗薬も有効。

③ 不安定狭心症

「狭心症発作が次第に頻回に起こるようになり、労作時ばかりでなく、安静にしているときも起こる」というように、初発から進行したものを不安定狭心症という。急性冠症候群ともいう。

<注意点>

心筋梗塞の前触れであり、発作がくり返し起こっている間に、大きな発作にいたらない前に心筋梗塞（心筋壊死）が起こることもある。

ニトロ製剤で収まるならば使用するが、救急車が必要。

発作が繰り返すようになったら、注意を要するということになる。

④ 微小血管狭心症

「(医師の観察下で)狭心症発作は起こっているのに、冠動脈狭窄がない。誘発試験をしても冠動脈攣縮は起きない」という場合に疑ってみるのが微小血管狭心症である。冠動脈には異常がないが、心筋の微細血管が狭窄して支障を来しているのではないかと考えられる。X線血管造影検査では写ってこないような細い血管の病変を想定するので、診断は多くの場合、推定にとどまる。自覚症状から判断することはできず、また重症となることはないといわれている。

平成三十年九月二十三日

青鳳会講師 吉野 久

心字解

心 シン こころ むね

心臓の形に象る。説文「人の心なり。土の藏(古文尚書)、身の中に在り。象形。

博士説に似て火の藏と爲す(今文尚書)」

古文尚書 脾木、肺火、心土、肝金、腎水

今文尚書 肝木、火、土、金、水

心は生命力の根源と考えられていたが、卜文にはまた心字は見えない。

金文に「克^よく厥^その心^{きん}を盟^なかにす」「乃^なの心^{きん}を敬^な明^なにせよ」の用法があり、心情をさす語として用いられていた。

靈樞・口問篇第二十八

黄帝曰く、人の太息するは何の氣か然ら使むるや。岐伯曰く、憂思

すれば則ち心系^{せま}急^{せま}し※。心系急ければ則ち氣道約す。約すれば則ち

不利なり。故に太息して以てこれを伸出するなり。手の少陰心主、

足の少陽を補い、これを(鍼を)留めよ。

※急 及キユウを声符とする。及は後から追う形で、その心情を急と

いう。説文には「棼^{かな}るなり」とある。これらから、氣せわしい、

せまい、かたくな(脞急^{えんきゅう})、あやうい(危急)の意が生じている。

靈樞・厥病第二十四 ……逆氣して心痛するもの

厥して心痛し、背と相控^ひぎ、善く癒し、後よりその心に觸るる如く
偃偻なる者は、腎心痛なり。先ず京骨崑崙を取り、鍼を發す。已ま
ざれば然谷を取る。

よくある、氣が上がりすぎて息ができません、肩甲間部が痛んで、胸苦しさを訴え
るもの。

心痛して背に引き、息するを得ざるは、足の少陰を刺す。已まざれ
ば手の少陽を取る。 靈樞・雜病第二十六

心筋梗塞

真心痛は手足清^あたく節(膝肘肩)に至り、心痛甚だし。旦に發すれば
夕べに死し、夕べに發すれば旦に死す。

刺法

心痛の刺すべからざる者は、中に(腹中に)盛聚有るものは脛より刺
すべからず。(背中の俞穴から刺さず、手足から刺す)

《 治 療 》

靈樞・熱病第二十三

氣、胸中に満ちて喘息するは足の太陰大指の端、爪甲を去ること薤の葉
如^{ばか}りを取る。寒^{つめ}たければ之(鍼)を留め、熱ければ之を疾くす。氣下れば
乃ち止む。

心疝の暴痛するは、足の太陰厥陰を取り、盡く刺してその血絡を去れ。

靈樞・官鍼第七

凡そ刺に十二節有り、以て十二經に應ず。一に曰く偶刺と。偶刺とは手
を以て心^{むねも}若しくは背^あに直^{じか}て※、直に痛む所を前に一刺、後に一刺し、以て
心痺を治む。此れを刺すには傍らにて鍼するなり。

※直^{じか}^あ^う 直陽之脈(素・刺腰痛篇) 直^{じか} 直 値と物の価値がつりあっている
↓ 直陽とは、陰と陽が直(あ)う所^{じか} 会陰。 多紀元簡・素問識

Ⅲ. 治 療

《 取 穴 》 照海・列厥（奇經治療） 百会、

季肋部の治療として 太敦、孔最、地機

心偶刺法

肩甲間部の治療として 氣海兪、上・中髎、飛陽

《 臨床例 》

患者・六十六歳・女性

主訴 狭心症の痛み 医師からニトログリセリンの舌下錠を処方されているが、
鍼治療も受けたい。

一診 狭心症の痛み 取照海 - 列厥 列厥の鍼のみ操作すると、心臓
にまで響いてスーッと胸が軽くなるという。

二診（翌日） 狭心症の発作はおさまったが、左の胸が痛い。 取列厥 心
兪

列厥 いなづま

漢書 司馬相如傳下

貫列缺之倒景兮，涉豐隆之滂瀆。